

# Ⅳ 子どもの学び

## 1. 学校のこと

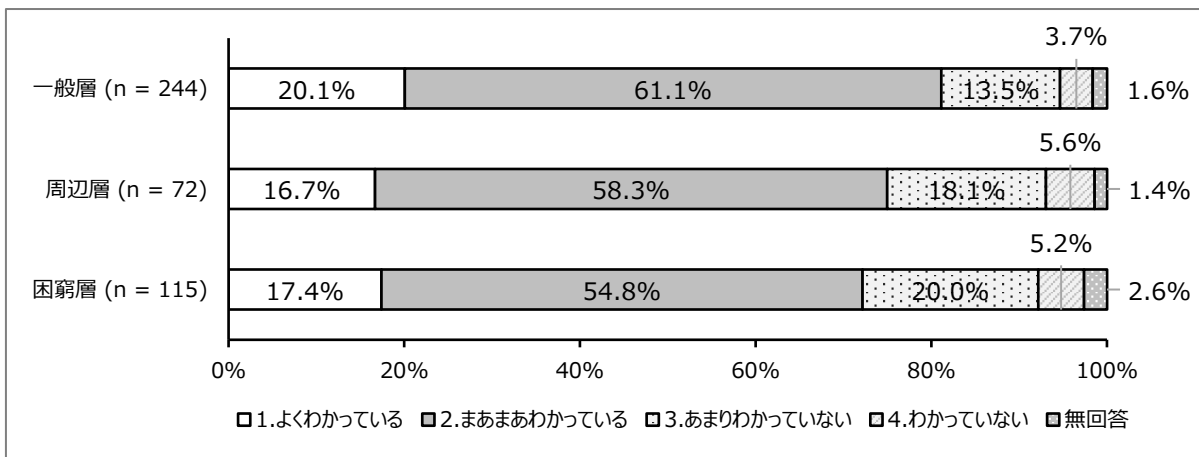
### (1) 学校生活

中高生に、学校の授業の理解度についてたずね、生活困難度別に比較した。その結果、大きな差は見られないものの、一般層では 81.2%がわかる（よくわかっている、まあまあわかっている）と回答したのに対して、困窮層では 72.2%と 9.0 ポイントの差があった。

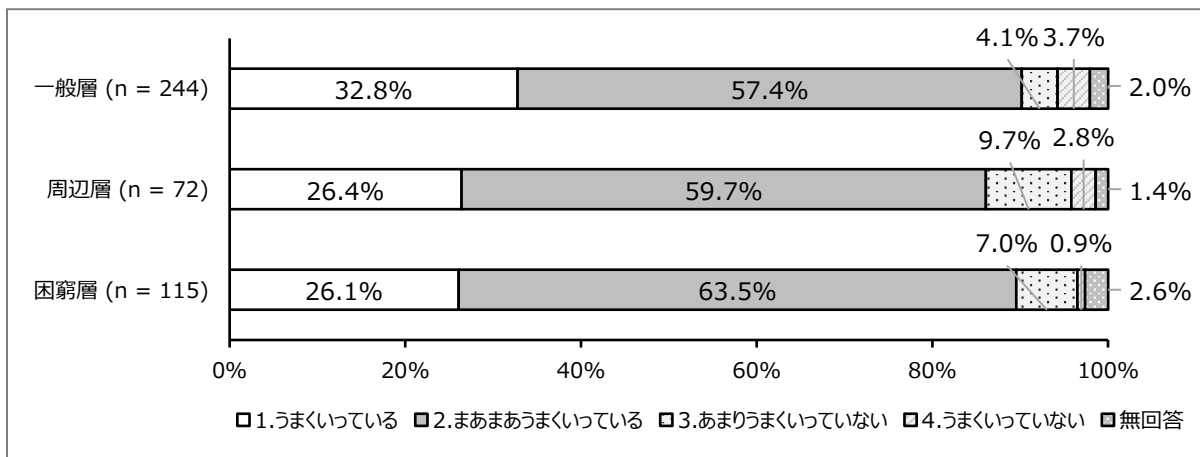
次に、先生との関係についてたずねたが、約 9 割の中高生は、良好（うまくいっている、まあまあうまくいっている）と回答しており、生活困難度別の差もほとんど生じていない。

最後に、友人との関係については、約 9 割の中高生は、良好（うまくいっている、まあまあうまくいっている）と回答している。生活困難度別の比較では、良好ではない（あまりうまくいっていない、うまくいっていない）にやや差があり、一般層が 4.9%であるのに対して、周辺層では 11.1%、困窮層では 7.8%となっている。

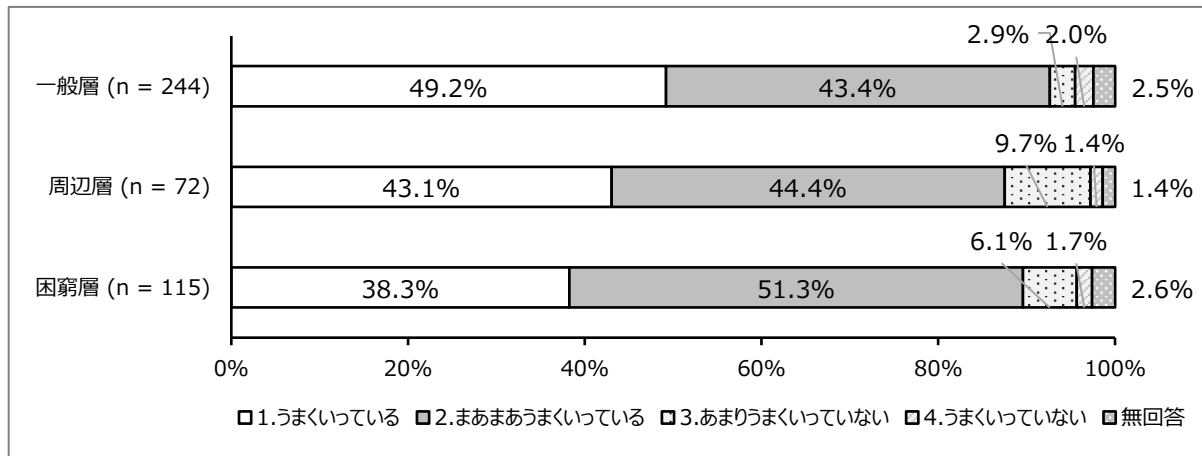
<図表 4-1-1 授業の理解度（中高生回答）：生活困難度別>



<図表 4-1-2 先生との関係（中高生回答）：生活困難度別>



<図表 4-1-3 友達との関係（中高生回答）：生活困難度別>

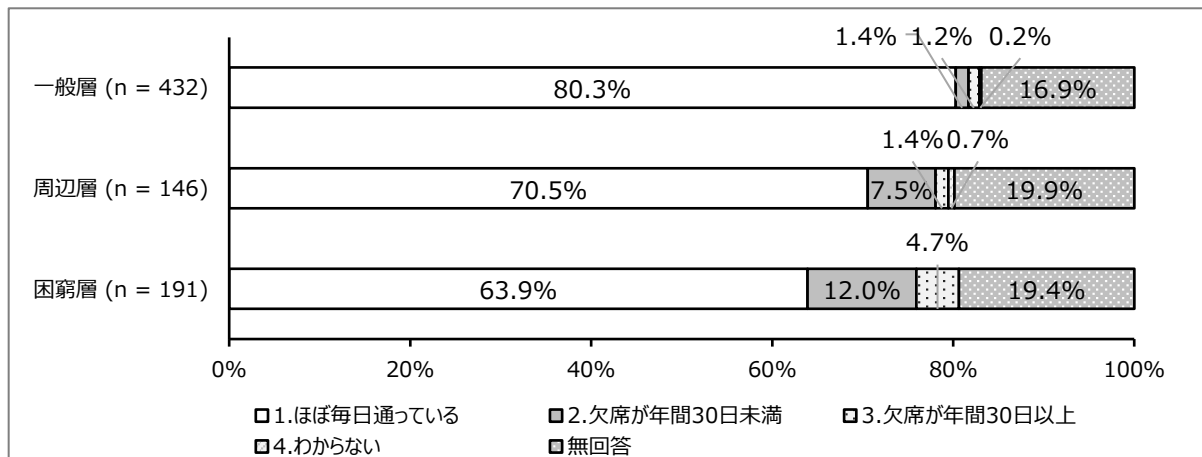


## (2) 通学の状況

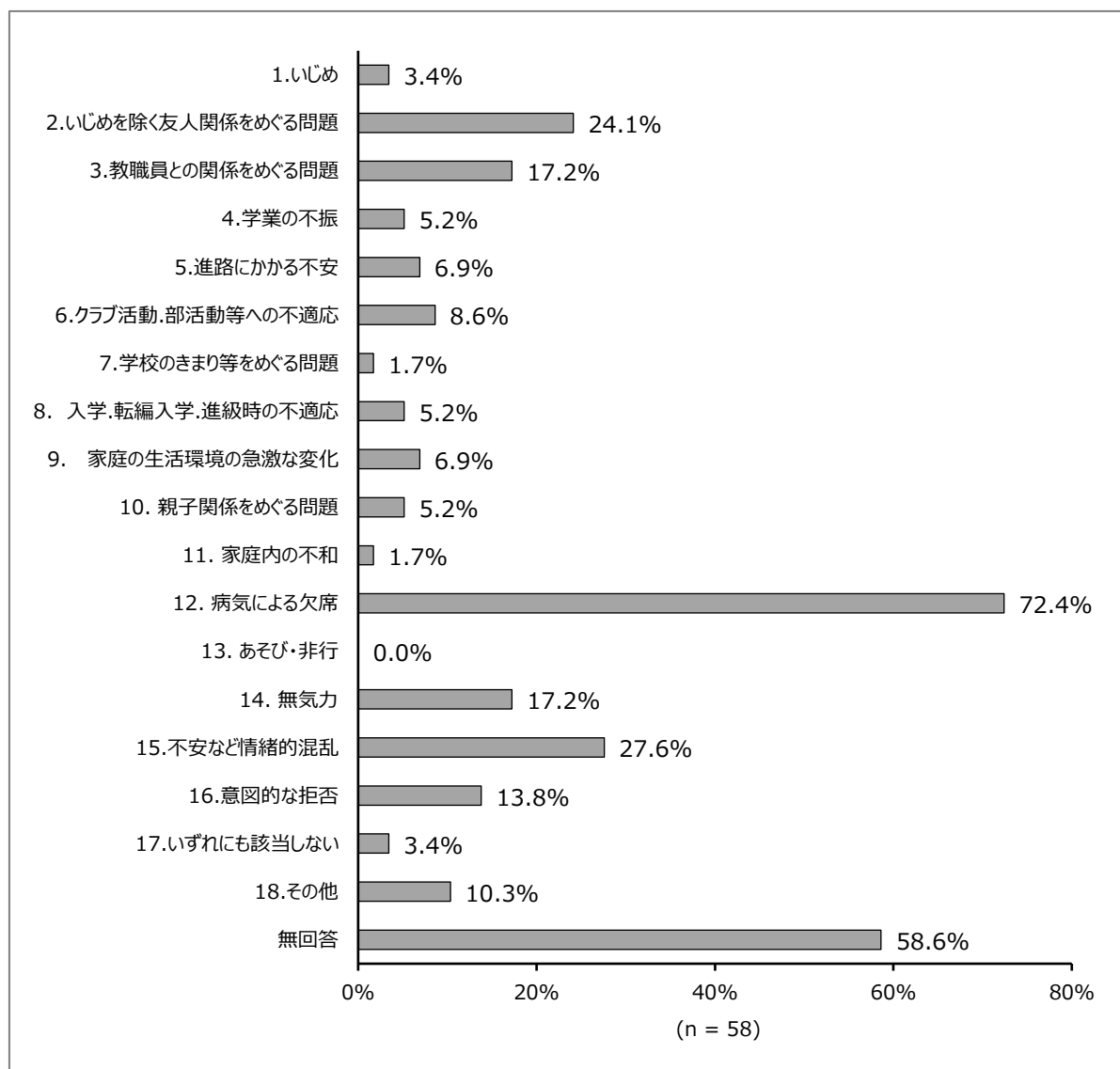
小中学生の保護者に、「通学の状況」と「欠席している場合の理由」についてたずねたところ、全体の7割超はほぼ毎日通っていると回答した。一方、生活困難度別に見ると、困窮層では「欠席がある」子どもが16.7%と、一般層の割合（2.6%）よりも14.1ポイント高い。また、不登校の定義にあたる「欠席が年間30日以上」の子どもの割合も、困窮層が4.7%と一番高く、一般層（1.2%）の約4倍であった。

なお、欠席の理由は、病気による欠席が72.4%と最も多く、次いで、不安など情緒的混乱（27.6%）、いじめを除く友人関係をめぐる問題（24.1%）となった。

<図表 4-1-4 通学の状況：生活困難度別>



<図表 4-1-5 欠席の理由>



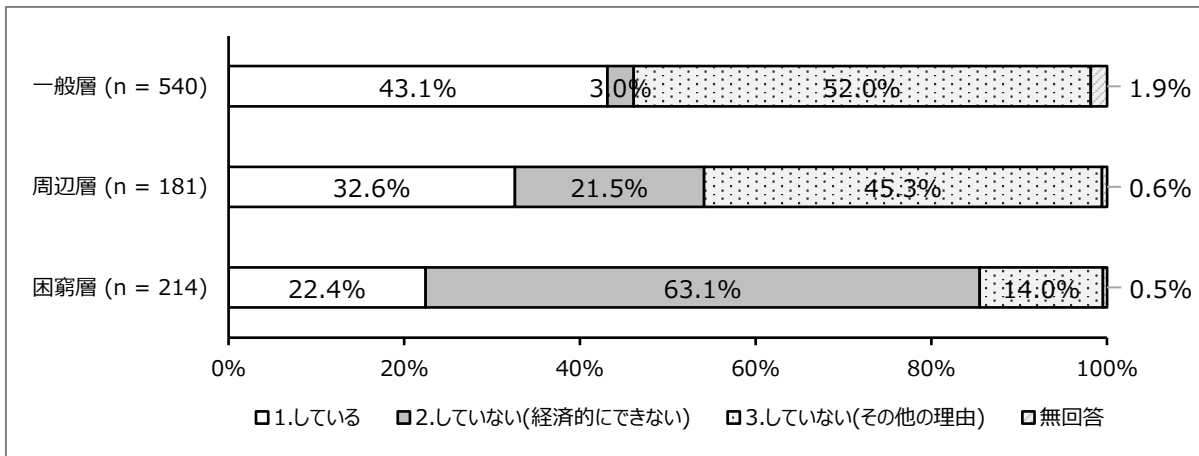
## 2. 学校外教育

### (1) 習い事・学習塾の利用

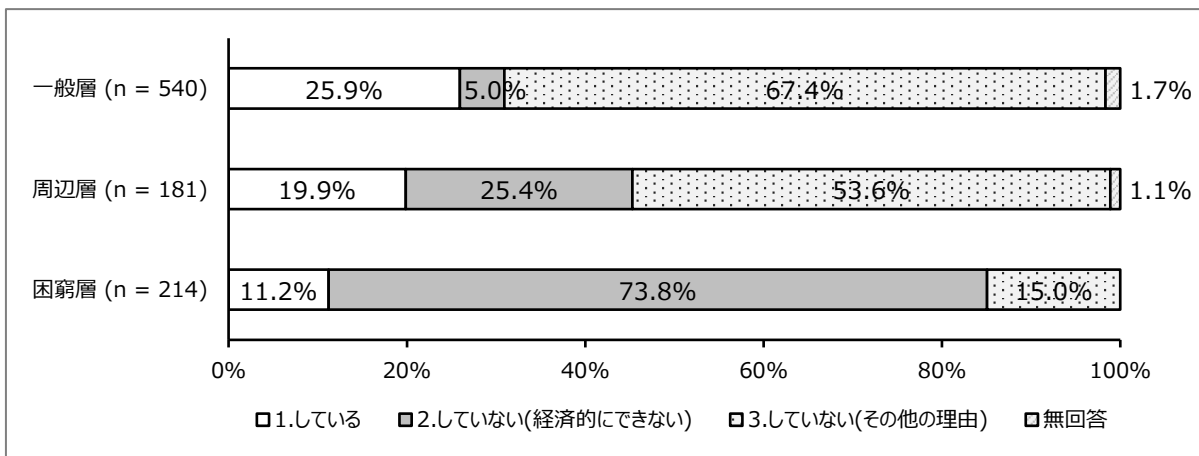
保護者に、習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせているかをたずねたところ、全体の 35.0%が行っていると回答した。生活困難度別に見ると、困窮層の 63.1%は経済的にできないと回答しており、一般層（3.0%）の 20 倍以上である。通塾（又は家庭教師）については、全体の 20.8%が通って（又は来てもらって）おり、生活困難度別に見ると、困窮層の 73.8%は経済的に行うことができないと回答しており、習い事と同様に学習塾（家庭教師）も生活困難度と関連した結果となった。

また、中高生にも学習塾や習い事の利用とその内容をたずねたところ、約半数は何も行っていないと回答した。内容で最も多いのは「学習塾・進学塾」で、次いで「絵画・音楽・習字等」、「スポーツ教室等」となった。生活困難度別に見ると、困窮層と一般層の差を見ると、学習塾・進学塾で 25.3 ポイント差があり、学習塾や習い事をしていない割合も、困窮層が一般層より 16.1 ポイント高かった。

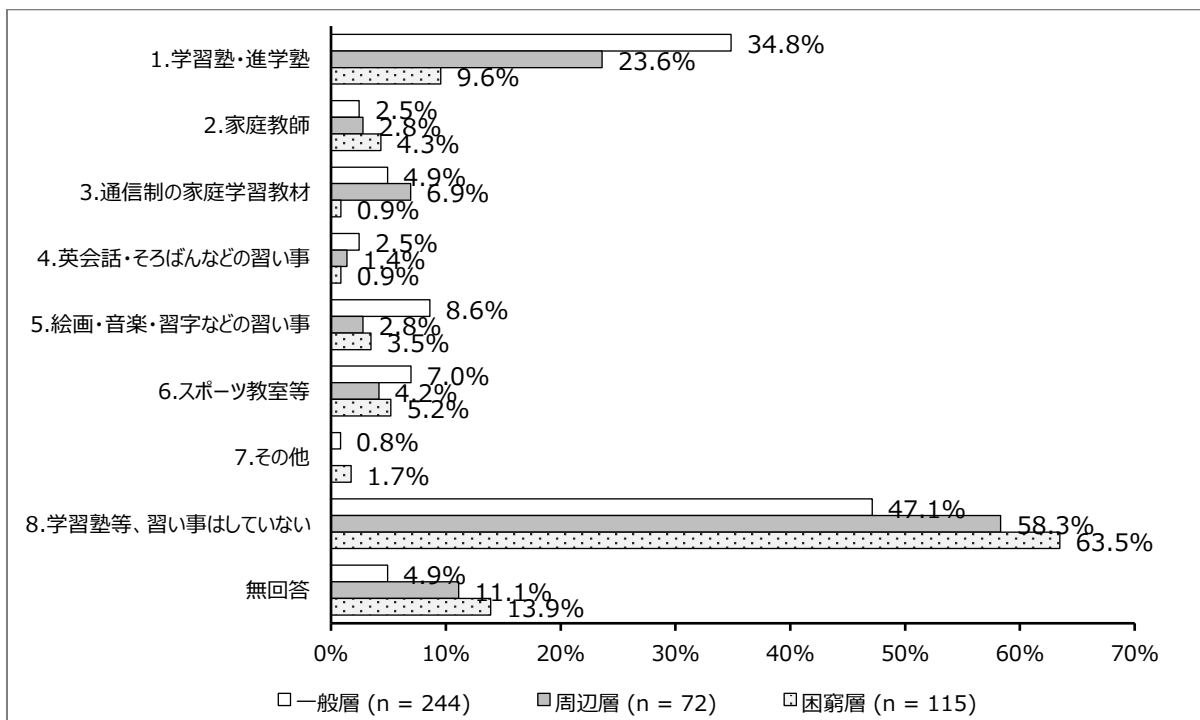
<図表 4-2-1 習い事の利用：生活困難度別>



<図表 4-2-2 学習塾・家庭教師の利用：生活困難度別>



<図表 4-2-3 学習塾や習い事の利用（中高生回答）：生活困難度別>



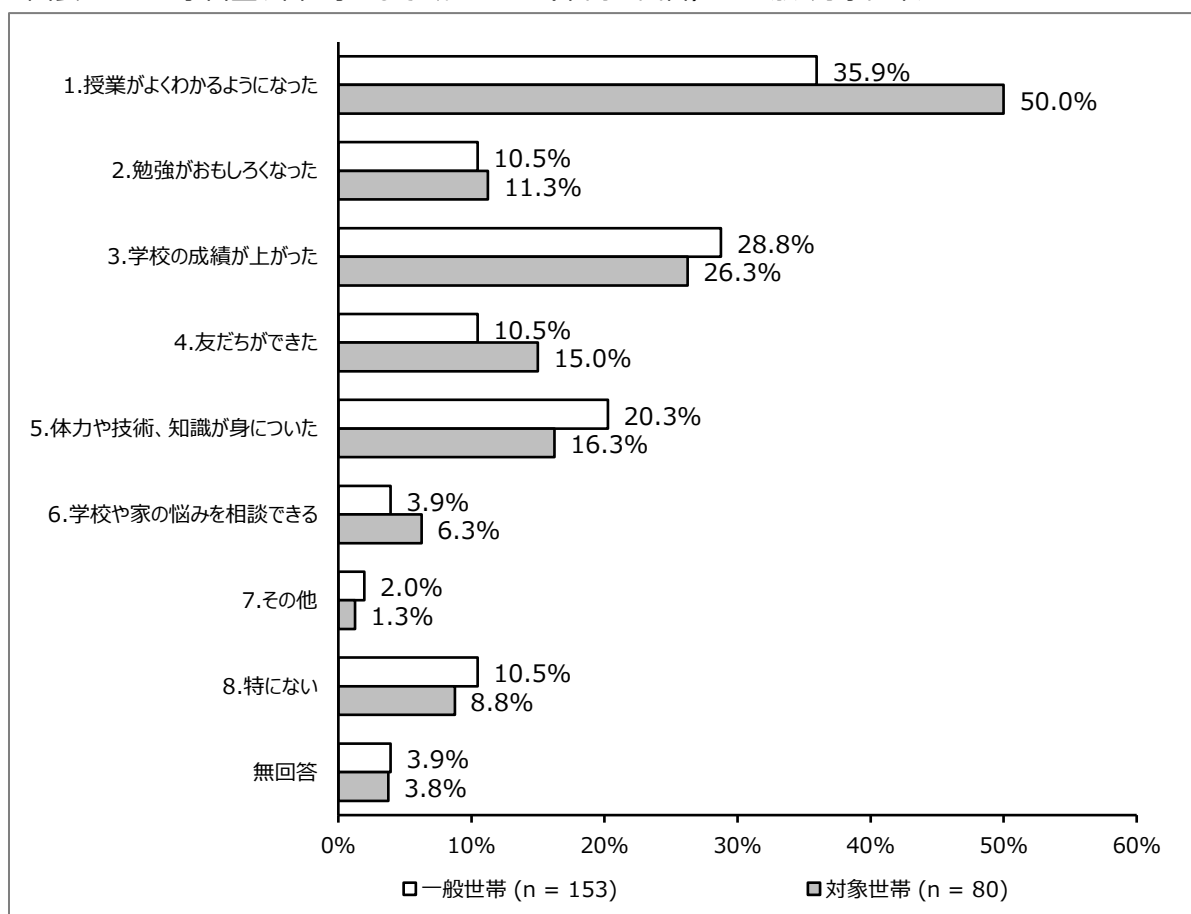
## (2) 習い事・学習塾の満足度と利用しない理由

中高生に「利用してよかったこと」をたずねたところ、「授業がよくわかるようになった」が最も多く、次いで「学校の成績が上がった」であった。また、世帯タイプ別に見ると、全体的に差はないが、「授業がよくわかるようになった」割合のみ、対象世帯が一般世帯より14.1ポイント高かった。

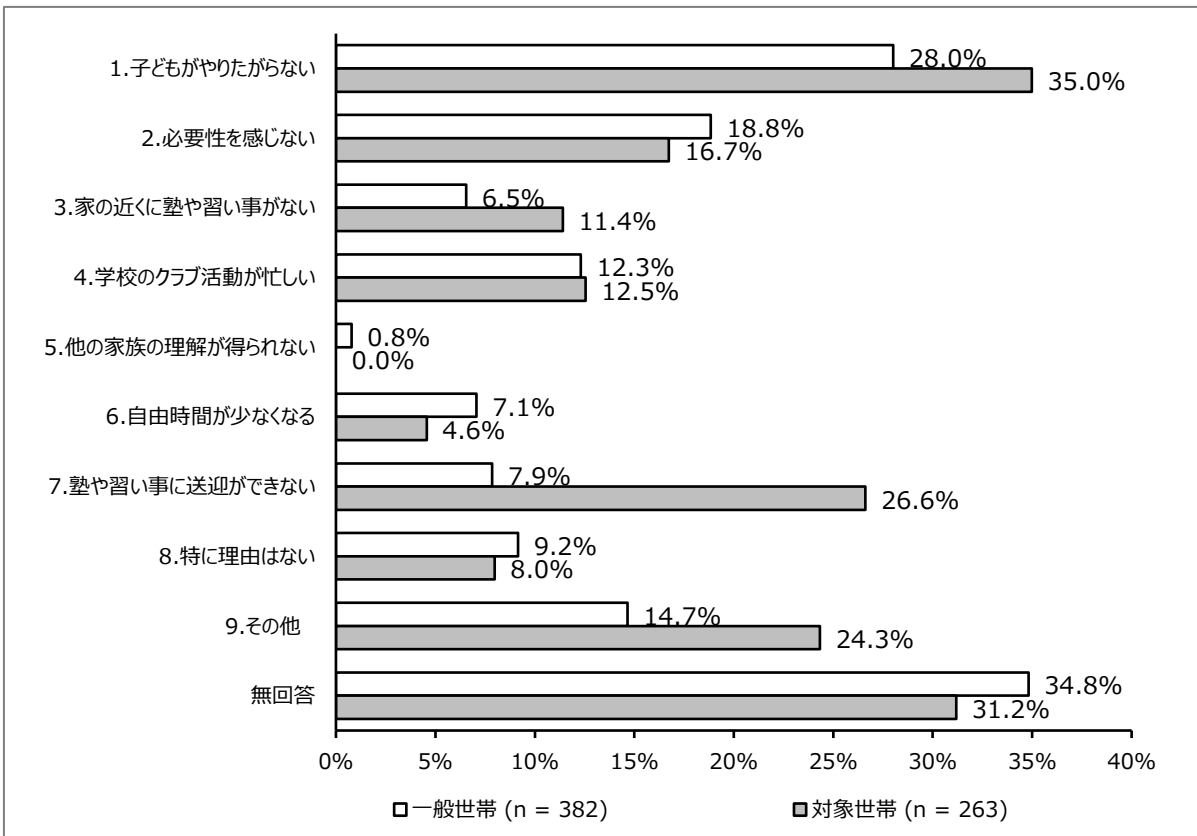
次に、学習塾や習い事をしていない理由について、保護者と中高生双方にたずねた。まず、保護者では、世帯タイプ別に比較し、一般世帯、対象世帯ともに「子どもがやりたがらない」の回答が最も多く、「塾や習い事に送迎ができない」の世帯差が最も大きかった。

中高生では、「親に月謝等の負担をかけられない」が一般世帯、対象世帯ともに最も多く、「親が送迎できない」が、保護者と同様に世帯差が最も大きかった。

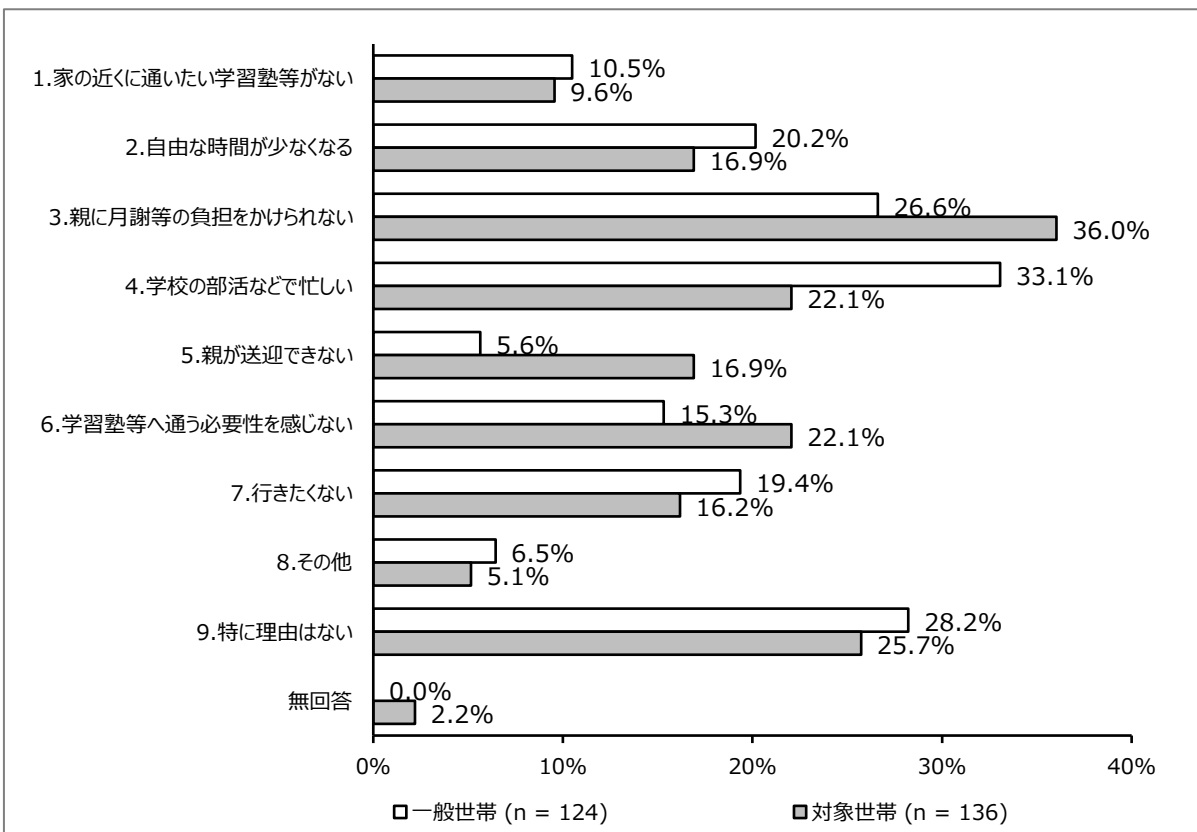
<図表 4-2-4 学習塾や習い事をしてよかったこと（中高生回答）：一般・対象世帯別>



<図表 4-2-5 学習塾や習い事をしていない理由：一般・対象世帯別>



<図表 4-2-6 学習塾や習い事をしていない理由（中高生回答）：一般・対象世帯別>



### 3. 進路・職業

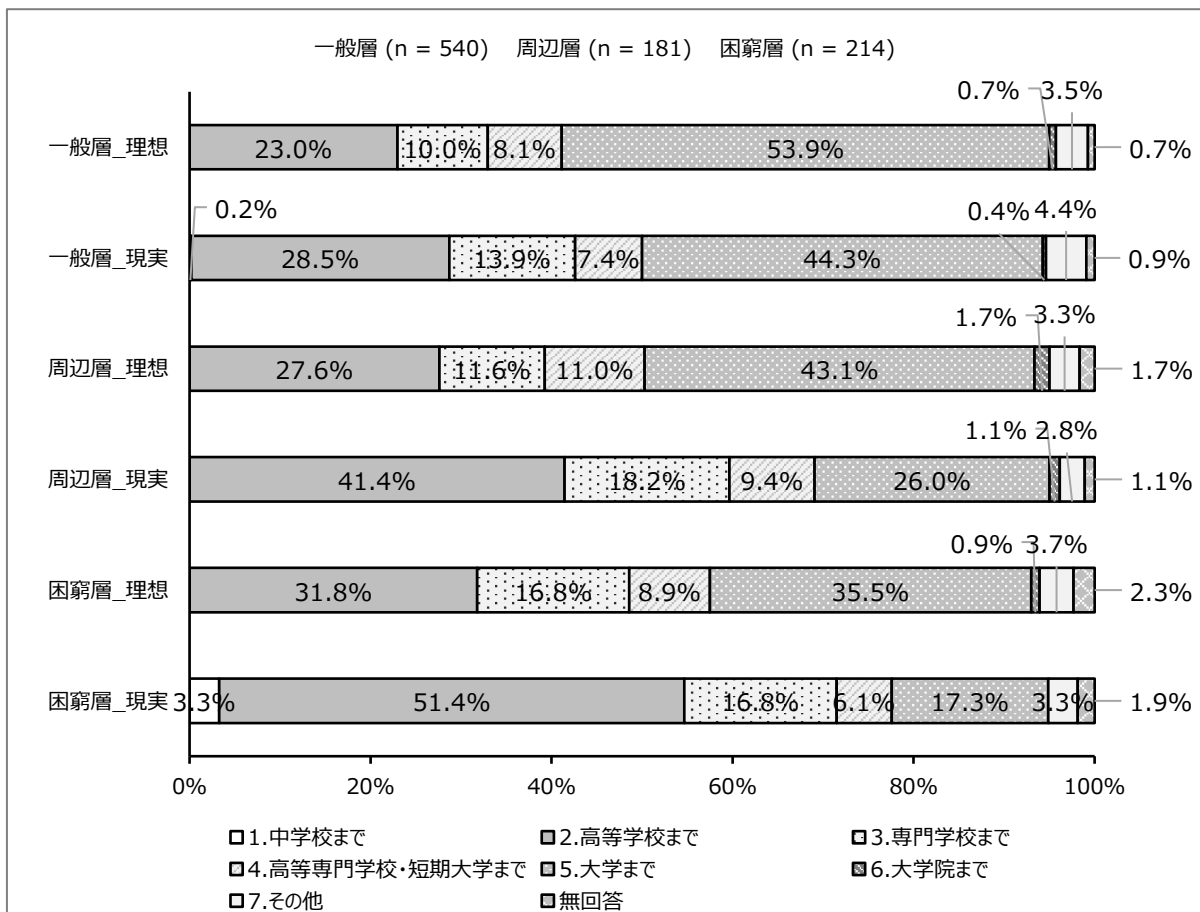
#### (1) 保護者が考える子どもの進路

保護者に、子どもが「理想的には、将来どの学校まで進んでほしいと思うか」と「現実的には、将来どの学校まで進むと思うかとその理由」をたずねた。全体として、理想が「中学校まで」と回答した者はおらず、「高等学校まで」も2割から3割程度となっており、専門学校から大学院までの高等教育を理想とする割合が6割から7割程度と高くなっている。ただし、理想の進路でも、「大学まで」とする割合は、一般層（53.9%）と困窮層（35.5%）で18.4ポイントの差があった。

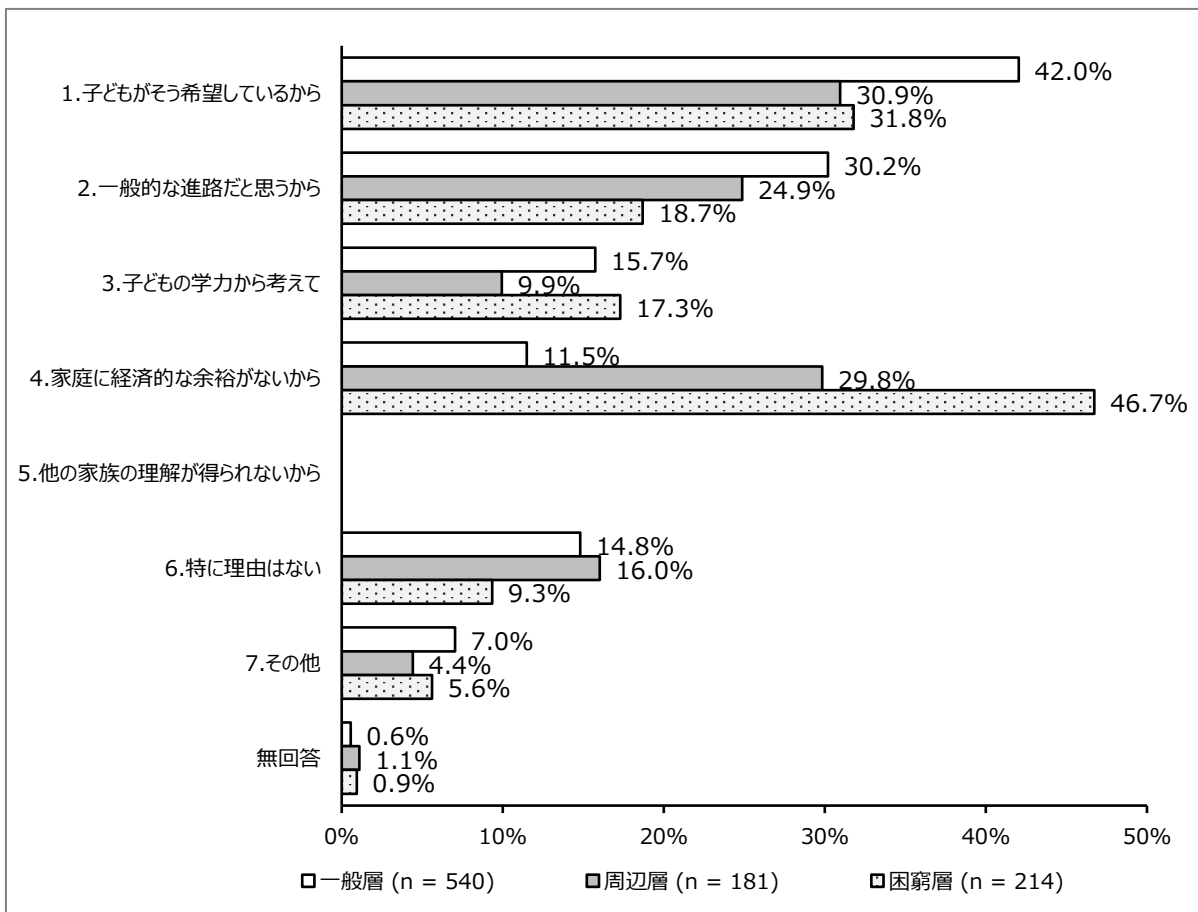
また、理想と現実の差を見ると、専門学校や高専・短大、大学院の場合は、理想と現実の差が小さいのに対して、「大学」は一般層9.6ポイント、周辺層17.1ポイント、困窮層18.2ポイントと、すべての層で減少している。逆に、「高等学校まで」を選択した者が増加し、特に困窮層では19.6ポイント増えており、理想と現実のギャップが大きいことがわかった。

最後に、現実の進路を選択する理由を見ると、一般層、周辺層では「子どもがそう希望しているから」が最も多いが、困窮層では「家庭に経済的な余裕がないから」が46.7%と最多である。一般層でこの理由を選択した者は11.5%であり、困窮層は一般層より約4倍高い割合となっている。

<図表4-3-1 理想と現実の進路：生活困難度別>



<図表4-3-2 現実の進路を選択する理由：生活困難度別>



## (2) 中高生が考える自分の進路

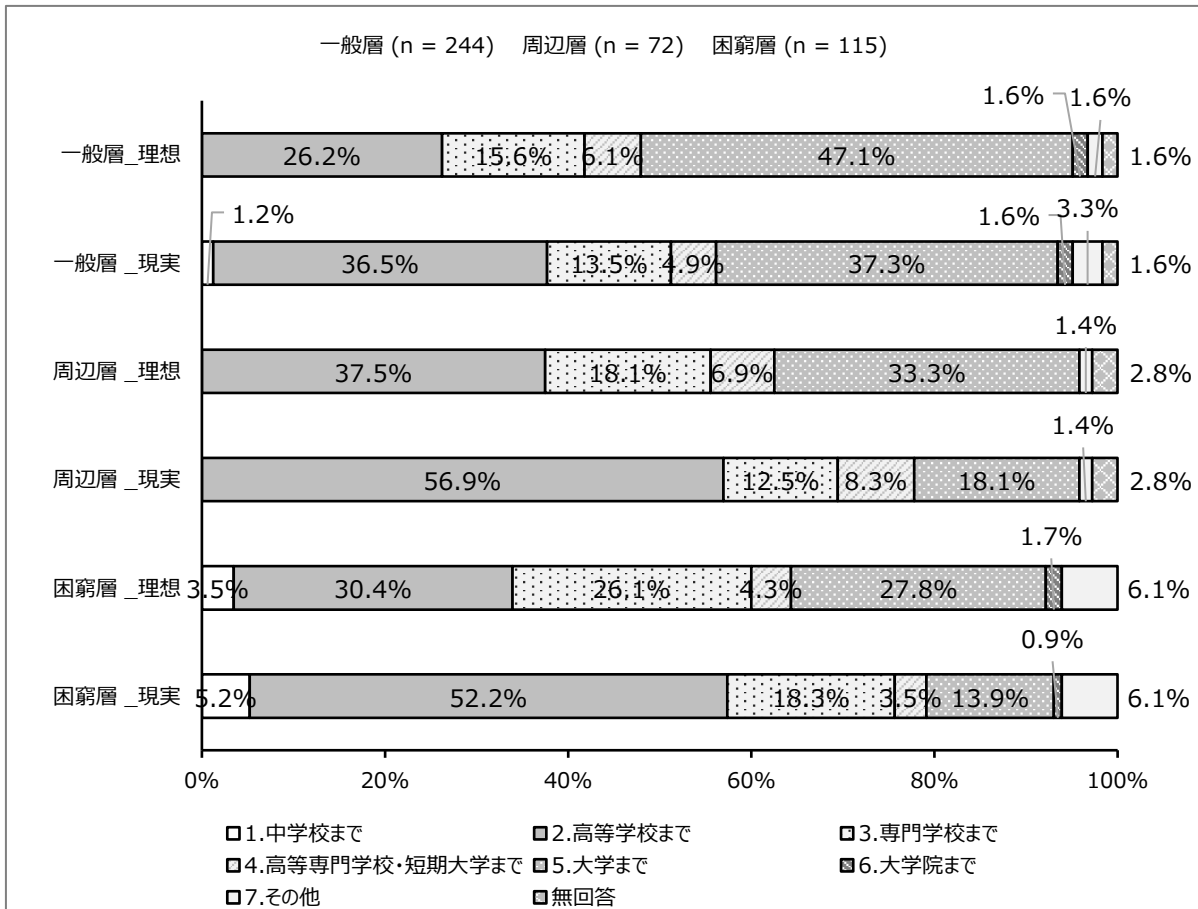
中高生にも、保護者と同様に「理想的には、将来どの学校まで行きたいと思うか」、「現実的には、どの学校まで行くことになると思うかとその理由」をたずねた。全体として、理想を「高等学校まで」とした者は3割弱から4割弱、専門学校から大学院までの高等教育を理想とした者は6割から7割程度と、若干の誤差はあるが、保護者と同様の傾向を示している。また、理想の進路を「大学まで」とする割合は、一般層（47.1%）、困窮層（27.8%）となり、ともに保護者より低い。両者の差は19.3ポイントと、保護者と同程度になっている。

次に、理想と現実の差を見ると、特に「専門学校」と「大学」で減少が著しく、2つを合わせて、一般層で11.9ポイント、周辺層で20.8ポイント、困窮層で21.7ポイント減少している。逆に、「高等学校まで」を選択した者は増加しており、特に困窮層では21.7ポイントも増加している。これらも保護者と同様の傾向を示しているが、両者の違いとして、保護者では現実の進路で「専門学校」が微増しているのに対し、中高生では理想と現実では「専門学校」が減少しており、理想の進路で選ぶ割合が高い。

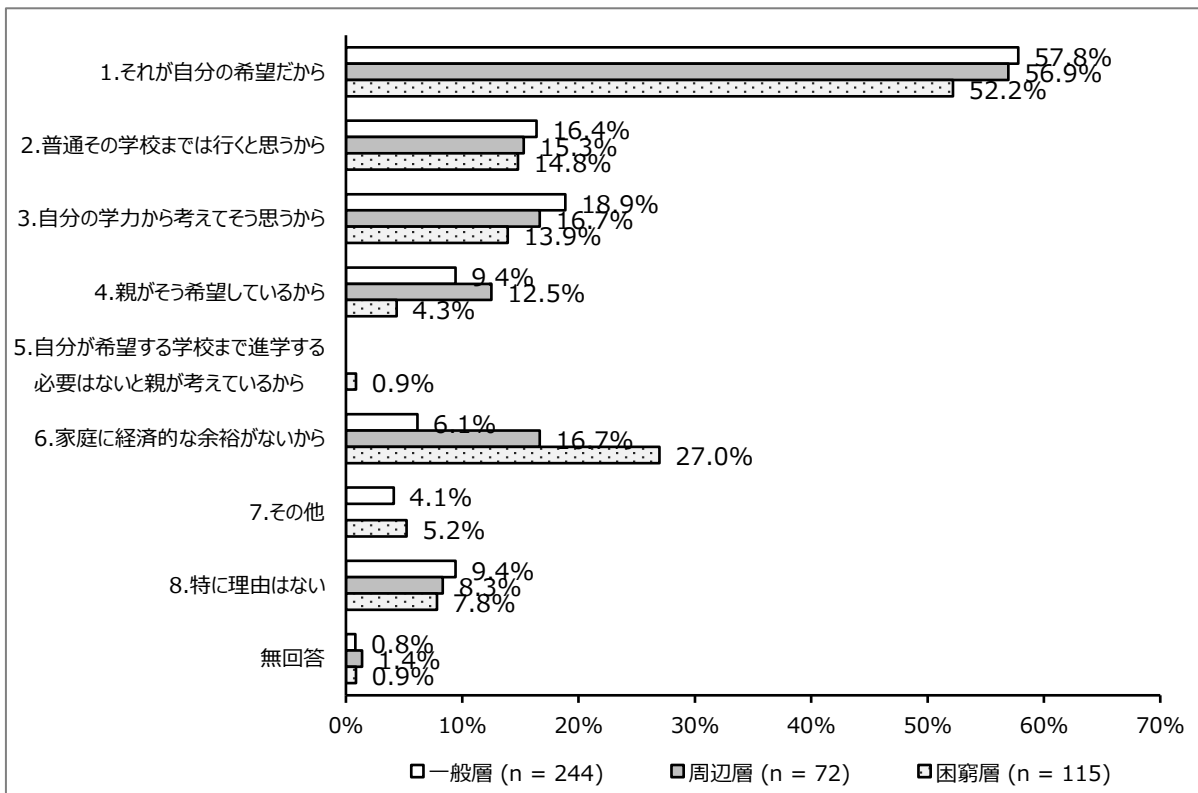
最後に、現実の進路を選択する理由を見ると、すべての層で「それが自分の希望だから」が最も多く、過半数を占めている。それぞれの層の差では、「家庭に経済的な余裕がないから」が最も大きく、困窮層（27.0%）は一般層（6.1%）の4倍以上となっている。



<図表4-3-3 理想と現実の進路（中高生回答）：生活困難度別>



<図表4-3-4 現実の進路を選択する理由（中高生回答）：生活困難度別>

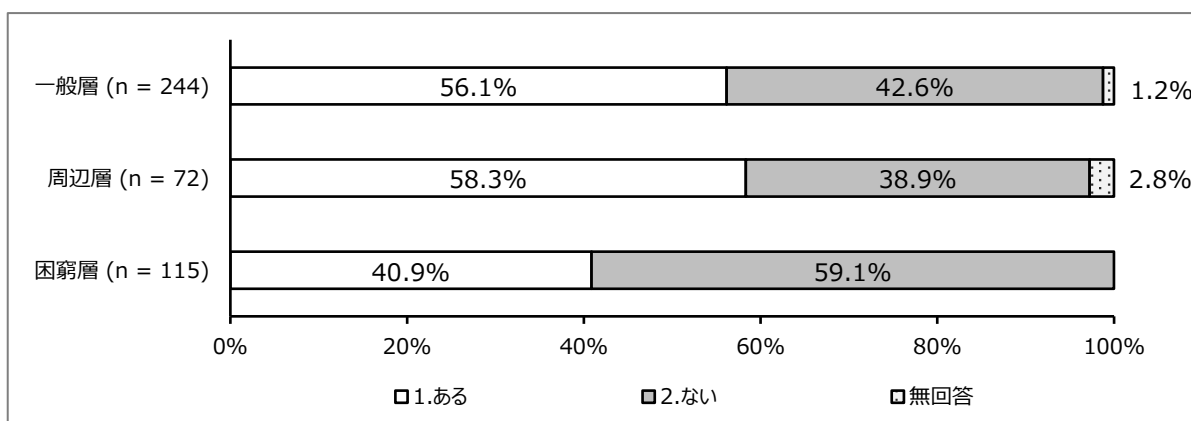


### (3) 将来なりたい職業

中高生に、将来なりたい職業についてたずねた。

まず、なりたい職業の有無については、全体の約半数が「ある」と回答した。生活困難度別に見ると、一般層、周辺層は同程度であったが、困窮層は「ある」の割合が減少し、一般層より15.2ポイント、周辺層より17.4ポイント低い40.9%であった。また、将来なりたい職業として最も多かったものは、保育士（7.7%）で、次いで看護師（5.8%）、公務員（5.4%）であった。働きたい地域については、全体として「石巻市」が最も多く、一般層では約4割を占めた。周辺層では「仙台市」（33.3%）が最も高く、困窮層では「石巻市」（34.0%）に次いで「県外」（31.9%）の割合が高かった。

<図表4-3-5 将来なりたい職業の有無（中高生回答）：生活困難度別>



<図表4-3-6 将来なりたい職業（中高生記述回答／トップ5）>

順位	職業	件数	割合
1	保育士	20	7.9%
2	看護師	15	5.9%
3	公務員	14	5.5%
4	幼稚園教諭	12	4.7%
5	教員	11	4.3%

※割合は、職業の記載があった計254件を母数とする。

<図表4-3-7 将来働きたい地域（中高生回答）：生活困難度別>

